

## 第2回 博物館施設の在り方検討会 議事要旨

### 1 名称

博物館施設の在り方検討会

### 2 開催日時

令和8年1月28日（水） 13時30分～15時30分

### 3 開催場所

広島市役所本庁舎 14階第7会議室

### 4 出席委員等（5名）

#### (1) 委員（敬称略）

松田 陽（座長）、垣内 恵美子、田中 貴宏、浜田 弘明、三宅 香織

※渡邊委員は欠席

#### (2) 事務局

広島市市民局文化スポーツ部文化振興課

#### (3) 受託事業者

株式会社乃村工藝社

### 5 傍聴人の人数

2人（報道関係者を除く。）

### 6 議事（公開）

- ・ 本市に必要な博物館施設及び収蔵庫の機能等について

### 7 資料名

- ・ 第2回博物館施設の在り方検討会 配席図
- ・ 第2回博物館施設の在り方検討会 出席者名簿
- ・ 本市に必要な博物館施設及び収蔵庫の機能等について

### 8 発言要旨

本市に必要な博物館施設及び収蔵庫の機能等について  
－事務局より資料について説明－

#### **■前回の振り返りと管理運営状況について**

（浜田委員）

- ・ 今回の検討では「広島市は何のために博物館が必要なのか」が最大のポイントだと思う。それにより、リアルの施設が必要か、バーチャルでもよいのかの議論になる。
- ・ 広島市の地域性を考えると、文化観光も視野に入れる必要がある。

- ・ 広島市の博物館施設全体の学芸員は73人と多く、驚いた。ただ12施設に分散しており、力が集約できていないのは課題ではないか。もし歴史系で統合すると20数人となる。学芸員の力をベースに考えていくと、博物館の在り方が見えてくると思う。
- ・ 博物館をつくるのであれば、その目的が市民の教育普及のためなのか、あるいは文化観光なのか、資料の保管・公開のためなのかなどによって、今後の博物館の在り方は大きく変わる。

**(松田座長)**

- ・ 浜田委員より広島市として博物館がどのような施設であるべきかを意識しながら議論を行う必要があるとの指摘をいただいた。賛同するところであり、意識して考えたい。

**(三宅委員)**

- ・ 私も学芸員が多いことに驚いた。公共施設マネジメントの視点からは、学芸員が専門職としての力量を発揮できるような施設でないといけないと思う。収蔵庫にある大量の資料の管理を学芸員が担っている状況は適切ではないと感じる。
- ・ 色々な都市で図書館のリニューアルが行われ、公設民営など施設の運営に民間の力を入れることで、図書館司書が専門職として資料のアーカイブ化に専念できるようになっている。今後、博物館も同じように専門職の特性を生かす傾向になると思う。
- ・ 学芸員を増やす選択肢は考えにくいので、資料は現在の人員で管理できる範囲の収蔵量にしないといけない。どのように整理していくのかという方針は、明確にすべきである。
- ・ 資料整理に当たっては、まず市民に現状を知ってもらう。寄贈者等への配慮は必要だが、資料の整理を進め、可能なものは公開してほしい。
- ・ 先ほど博物館の目的の話があったが、博物館は観光や産業育成に直接的に寄与するのは難しいと思う。例えば費用を払って見に来てもらうという観点で目標を立てると、そのためのKPI（重要業績評価指数）を設定しなければならなくなり、本来の目的と合わないものになる。
- ・ 学芸員が資料を整理し公開できる形にして価値が生まれるのは長い時間がかかる。長期的な視点での投資であって、すぐに回収できるものではない点を明確にしたほうがよい。
- ・ 現在は収蔵庫の資料を全て文化振興課が管理しているが、消防関連の資料なども保管されていたので、そういった資料は、他の部署と連携して歴史やストーリーを語れるようにし、立派な博物館でなくても資料を見せられるようにすればよい。  
そのためには、ハードとソフトの考え方をきちんと整理する。資料8ページはその点が整理されていない印象を持った。

**(垣内委員)**

- ・ まず「このミュージアムは市民のためにどういう役割を果たすのか」ということを、広島市として説明しないと前に進まないと思う。現状、来館者の声やアンケートでの意見がないということであったが、ニーズがあってそれに応えるということが重要である。
- ・ 資料2ページの1. 1-1に、「本市における人文社会系博物館の数は、政令指定都市の平均を下回っている」とあるが、この部分で、広島市にはこういうニーズがあるが十分に答えられていないというような説明があると分かりやすいのではないか。
- ・ 市民調査の実施はなかなか難しいと思うが、手がかりをつかむ方法はある。学芸員へのヒアリングは既に行っているのでも、例えば学校や、関連する方々への聞き取りをする。パイロットサーベイでもフォーカスグループだけでもよい。一定程度のニーズを掴むこと

ができれば、そのニーズに応えるために、どういうことをするミュージアムが必要かという展開ができる。

- ・ 資料のコレクションを拝見したが、ミュージアムの展示として資料的な価値があるものは限られていると聞いた。コレクションが十分でないと、単独のミュージアムをつくるのは難しいと思う。
- ・ 日銀の地下展示はクオリティの高い価値のあるコレクションで見応えがあった。広島市には、それ以外に収蔵されている未知数のコレクションがあり、整理していると聞いたが、「何の目的で整理するか」が決まらないと整理できないのではないかと。また、資料としての価値はあっても、当該ミュージアムにとっての価値ではない場合もある。市民の方が、広島市を知るために必要とされているものは何か、何をしてほしいと思っているかという手がかりが欲しいと思う。
- ・ どういう活動をするかにより建物や空間設計も決まってくる。最初の部分を固めることが大切である。

(田中委員)

- ・ 重要な論点は、どういう機能を持つべきか、どういう役割を果たすべきかだと思う。
- ・ まちづくり・建築の観点から見ると、どれだけ集客するかも大事だが、市内外の人が訪れて、被爆前の歴史を含めて学べる施設があるとよい。市内のこどもの教育や、まちへの愛着形成という観点からも、まちの歴史を学べる場があることは大切だと思う。
- ・ アンケート調査までいかなくてよいが、若い世代が広島についてどのように理解し、考え、アイデアを持っているのかを聞く機会があるとよいと思った。
- ・ 学芸員へのヒアリング結果は、非常に納得した。人材や施設のリソースを全体として最適化する視点が必要だと感じた。

(松田座長)

- ・ 資料2ページの「博物館の数と構成」にある「来館者数100人未満」は、1日当たりか年間か。

(事務局)

- ・ 年間である。

(松田座長)

- ・ 7ページの学芸員ヒアリングは、大変有用な資料だと思う。
- ・ 「資料の収集・保存の現状」の3点目、資料管理について「統一されたシステムはない」と書いてあるが、館種別に共通化されている方が活用しやすい場合が多い。市として統一システムがあればマネジメントは楽かもしれないが、民具、紙資料、美術品、動物など、多様な対象を扱うことを考えると、ここは問題視しなくてよいと思う。
- ・ 同じページの「各施設の連携」の2点目に、「施設間の学芸員のつながりは非常に強く」とあるが、市内の施設間を指すのか、館種別のつながりを指すのか。

(事務局)

- ・ 郷土資料館と広島城の資料のやり取りなど、市内の施設間をイメージしている。

(松田座長)

- ・ 博物館施設が12館あり、分野が多岐に渡っているにも関わらず連携し、73人の学芸員が交流できていることは、ネットワークを考える上でもよいことだと思う。

(事務局)

- ・ 今回の検討は、博物館を作ることありきではなく、それ以前に、広島市としてどのような機能・役割が求められるかについて御意見をいただきたいという趣旨である。

- ・ 午前中に収蔵庫を見学いただいたが、収蔵資料を今後どのように生かしていくかは、我々としても悩みどころである。
- ・ 検討会に当たって、こういったアンケートの取り方がよいか模索していたところである。どこにニーズがあるのか、何を目的とするのかという点は重要である。教育関係の一つのきっかけにしてはどうかという意見はありがたく、参考にしたい。
- ・ 学校の社会科で地域や地元について学ぶ機会があるが、広島では平和教育が重視されており、被爆の歴史を学ぶ場は多い。一方で、郷土の歴史や文化では、こういった所に焦点を当てるとよいのか、御意見をいただきたい。
- ・ 被爆以降の資料はあるが、それ以前の資料が整理されていない。愛着や誇りを醸成することや文化庁から観光の側面を入れることについての流れも模索している所であるが、少なくとも歴史・文化を伝えることは自治体として必要であるのではないかと考えている。
- ・ 広島市は学芸員数が多いので、今後、人口減少・少子高齢化が進む中、近隣の自治体の学芸機能不足を補完する機能も必要と考えている。

#### (三宅委員)

- ・ アンケートを行う場合、社会科や家庭科の教員にこういった展示なら授業などで使えるかを聞くとよいのでは。また、デジタル化した資料はタブレットを使った学習に使える。例えば学芸員と学校教員が連携して教材開発を行うと意義があると思う。
- ・ 30年程前に倉敷市で市史編纂を経験した。大学研究者の協力を得ながら、文書を解読したり道具等の資料も整理した。その時は文書を扱う関係から総務課の中に担当部署が置かれたが、教育委員会だけで担うのは難しく、産業界、高齢者の活動グループ、様々な市民協働など、行政全体と市民が一緒に取り組む体制が必要であった。
- ・ そういった市民参加型の取組が、結果として博物館を訪れる人を増やすことにつながるので、みんなに考えてもらう視点でのアンケートや意見集約を行ってほしい。

#### (松田座長)

- ・ 広島市では前回の市史編纂から相当の時間が経っている。市史編纂は長期事業となるので、今回の検討と併せて市史編纂を行うことも一案である。広島市は被爆に関する歴史を重視しており、もちろんそれも大切だが、それ以前の広島の歴史にも意識を向ける必要がある。

#### (垣内委員)

- ・ 収蔵庫のコレクションでは、広島市の通史が分かる資料としては不足しているのではないかと。移民関連の資料はここ数世紀をカバーできるかもしれない。通史では縄文時代に遡るのか、どの時代までを想定しているのか。また資料はあるのか、購入するののかも伺いたい。

#### (事務局)

- ・ 西区に埋蔵文化財の保存施設があり、各地域の古い資料を保管して展示し、一般公開している。現状の面積では狭く、移民関係も含めて考えていきたい。
- ・ 現状では資料が分散しているので、ある程度、集約を図る必要があると考えている。どの時代までを対象とするのか、また現在の社会情勢の中でどこまでできるかなどについて、今回いただいた御意見や様々な方へのヒアリングを踏まえ、検討していきたい。

#### (垣内委員)

- ・ 1980～1990年代に、全国的に博物館数が増えたが、特に歴史系博物館、類似施設が激増している。地総債などを利用したインフラ整備の一環として、公の施設である

博物館等が作りやすくなり、道路や病院整備の際に遺物が出土する事例が多数あったことも相まって、特に歴史系の博物館等が増えたと思われる。このような出土資料も含め、どこまでを対象と考えているか。移民関係については海外とのつながりに焦点を当てているのかと思っていたが、通史とするなら、約2000年に及ぶ歴史全体を対象とするのか。

**(事務局)**

- ・ 通史とした場合、広島成立以降かそれ以前かは、検討が必要と考えている。収蔵資料は移民関係が多く、それは旧日本銀行広島支店の地下に展示している。その他に郷土資料は宇品の郷土資料館、城関係の資料が広島城、被爆当時の資料が平和記念資料館と分散している。そういったものだけでなく、広島の成り立ちを総合的に学べる機会を提供する必要があるのではないかとということで昭和58年に策定されたのが博物館基本構想ではないかと思っている。そういったことも踏まえ、対象とする分野や時代など必要な資料の範囲やその展示をどのようにするかといった手法について議論していただきたい。

**(浜田委員)**

- ・ 公文書館で通史の編纂をされていると聞いた。公文書館で古文書を保管しているのか。そうであれば、公文書館を含めた資料の保管、公開を視野に入れたいといけな。
- ・ 学芸員のネットワークが非常に強いということだが、協議会などでのつながりなのか、職員の自主的なネットワークなのか。後者であれば強く生かす必要があると思う。
- ・ 関東の小中学校では郷土学習が中心で、平和学習については事前学習の上、修学旅行で広島に来て学ぶ形が多い。一方、広島では平和学習が中心で、郷土学習が少ないという印象がある。
- ・ 広島市内には、原爆関連以外にも歴史学習グループ、研究団体があると思うが、そういう方々の御意見をこれまで聞いたことはあるか。

**(事務局)**

- ・ 今回の検討の中に公文書館は入れていない。お話を伺い、その視点はあったと思った。
- ・ 連携については、広島市文化財団が指定管理者となっている施設が多く、人事異動も含めた人の行き来が日常的にあり、そのつながりの中でアイデアが出ることが多い。
- ・ 歴史グループへの聞き取り調査は、少なくとも近年は実施していない。

**(浜田委員)**

- ・ 歴史グループや研究会に聞き取りをすると、新しい視点に繋がる可能性があると思う。

**(松田座長)**

- ・ 私は昨年から広島市内にある江波地区の歴史を研究しているが、江波を対象とする郷土史グループがあり、自分たちで資料を発掘し、活動も盛り上がっている。被爆前からの歴史や、江波山気象館を核に発展してきた地形との関わりといった資料もあり、市史に一部記載があるものの博物館では学べない内容である。地元の郷土史家が最も多くの情報を持っていると感じた。一方で高齢化が進んでおり地域の歴史や資料の今後の受け皿が必要である。

**(三宅委員)**

- ・ 広島の大きな特徴は原爆であり、岡山県下からも小学校のうちに1回は原爆資料館に社会科見学に行く。郷土史をまとめる博物館であれば、その対象を観光とせず、広島市民の教育にすべきだと思う。

- ・ 学芸員にはそれぞれの力が発揮できる分野がある。ヒアリングだけでなく、学芸員同士が集まり、広島市の博物館像について議論する場を設けてもよいのではないか。
- ・ 海外の市立博物館では、まちの成り立ちや発展を時系列で示す例が多い。ニューヨークでは移民の歴史、都市計画の図面や資料が展示されており、まち歩きの参考になった。個人的には広島の場合、縄文まで遡らなくてもよいのではと思う。廃藩置県以降あるいは被爆後の都市計画が分かる構成が良いと考えており、それだけで学生や子どもたちの関心、市民の学びになる。対象を絞らなければ、ハード的にも実現は難しいと感じる。
- ・ 地域で活動している人は地域で活動することに意義を見出している人が多いので、そういった内容は大きな博物館に活動を集約するのではなく、例えば小さな図書館に農機具などの実物資料も含めて資料を置くなど、別の事業としてフォローできるとよい。
- ・ 1970～1980年代に整備された博物館や学校等の公共施設は、50年近く経過し老朽化が進んでいる。3ページの「施設整備の考え方」は、総合管理計画を作る際にも議論された内容であるが、ハードと中身は分けて考える必要がある。広島市として、何のための博物館か、誰に向けた博物館かを整理し、そこに学芸員の思いを重ねていく形が望ましい。

(松田座長)

- ・ 学芸員の意見を吸い上げる場があるとよい。他の政令指定都市で、これだけ学芸員がいる都市はないのではないか。

(事務局)

- ・ 学芸員や教育関係者への意見収集方法を改めて検討し、メール等でお諮りしたい。

(松田座長)

- ・ 無理のない範囲でやってもらえればと思う。

(田中委員)

- ・ シンガポール、上海、バンコクでも、都市の成り立ちや計画の歴史が分かる場が設けられている。観光を主目的とするものではないが、市民も含めて都市や都市計画の歴史を学べる場があることは重要であり、まちへの愛着やシビックプライドにつながると考えている。

(松田座長)

- ・ 広島の被爆の歴史は、外から見ても大変関心が高いが、それ以外の歴史は広島の魅力として未開拓の領域であり、ここに手をつけることによって、広島市の魅力がさらに広がる可能性があるので注目したい。

(垣内委員)

- ・ 広島城を見学したが、入城以降の地割りや町並み、武家地と町人地の構成、埋め立ての過程から廃藩置県までの説明がビジュアルとナレーションで分かりやすく、優れた展示と感じた。広島城と平和記念資料館は二大拠点であり、郷土資料館では江戸以降の産業構造も扱われている。こうした既存施設がある中で、今回の検討でどこを深掘りしたいと考えているのか伺いたい。

(事務局)

- ・ コンテンツとしてあるものを、何を目的として整理し、教育の観点や学芸員の要望も踏まえ、どう活用していくのが良いかなどについて、まずはどういう形を目指していくべきなのかということを検討していきたいと考えている。

- ・ 埋蔵文化財などのコンテンツを前面に出すべきか、他にも資料があるのでそれは出さないのかといった、バランスや焦点の当て方に迷う部分がある。施設ありきではなく、広島としてあるべき姿を実現するのに、施設がいるのか、デジタルでよいのか、郷土資料館の機能強化で対応できるのかといった議論をしていくことになると考えている。

(田中委員)

- ・ 広島城の展示が、現在につながるとなおよ。今あるものを組み直すことを考えることが必要だと思う。

## ■必要な博物館機能について

(三宅委員)

- ・ 建設費が高騰する中で新しい施設や事業を行うには、目標設定の4項目とKPIが明確に対応していなければ運営が難しい。「あらゆる人々が交流する施設」と書かれているが、あらゆる人々が訪れる公共施設は現実的ではなく、公共施設はそれぞれの目的とターゲットの設定がある。1の右欄に書かれた4つの具体的な項目を柱としてもよいくらいである。
- ・ デジタル化は不可欠であり、大きな柱にするべきである。資料点数が多く台帳化に苦慮しているという学芸員の声もあり、アーカイブ化を検討してほしい。

(松田座長)

- ・ 1～4を総花的にやるのではなく、1と2を重点的にしてはどうかという意見をいただいた。
- ・ 「デジタル活用」を見据えたデジタル化である点も明示してほしい。

(浜田委員)

- ・ 「文化観光」という意味を補足すると、これは、観光目的で博物館をつくるという意味ではなく、国内外の来訪者に地域の文化を正しく知った上で観光してもらうという意味である。博物館が文化観光の拠点となるということもあり得る。文化観光については、適切に捉えて検討していただきたい。
- ・ 5ページに示されている、広島城、郷土資料館、埋蔵文化財保存活用施設が統合されると広島市の通史を描くことが可能になる。この3施設は学芸業務が広島市文化財団に委託されている点からも運営面で対応しやすい。現在の施設活用だけでなく、老朽化が指摘されている広島城を含めて統合し新たな博物館とすることも一つの方策となる。

(事務局)

- ・ 広島城は今年3月22日で閉館し、来年度中に南側の三の丸に博物館機能を持つ新たな施設の整備を予定している。新施設では広島城にまつわる歴史を扱う。平和記念資料館と広島城の歴史館が存置する中で、郷土資料館や移民関係などの資料について、各館の特性を踏まえた上でどのような役割を持つべきかを検討する必要がある。昭和58年当時の構想で示された「拠点」という考え方もあわせて検討したいと考えている。

(松田座長)

- ・ 来年度開館予定の三の丸歴史館に広島城の資料が移るとなると、仮に総合的な歴史博物館を構想しても城関係の資料は含まれず、網羅的にはならないと改めて感じた。包括的な歴史展示となるかは迷いもあるが、使える資料は主に、郷土資料館のもの、移民関係のもの、埋蔵文化財の3点であることを説明いただいた。

(垣内委員)

- ・ 8ページの「通史展示を行う」は、既存施設との関係を考えると混乱を招くため、平和関係やお城関係を除くことが分かるよう、「既存資料や施設の機能を包括的・網羅的に活用する」などの表現にするほうがよい。
- ・ 項目3の文化観光と項目4の交流は残すのであれば統合して整理するのが現実的。文化観光を前面に出すとKPI設定や運営面で無理が生じる。文化観光の法律上の定義は、「文化についての理解を深めることを目的とする観光」なので、あらゆる人が訪れるという考え方はそこに含めることができると思う。多言語対応を行うことで、3と4の目的が達成できるのではないかな。
- ・ 項目2は重要。博物館は社会教育施設だが、将来への投資として、こどもファーストでないと理解を得られない。実際には高齢者も多く来られると思うが、こどもの学びの機会を重視することを前面に出すのはよい。
- ・ 博物館には、高齢者や心身に課題を抱える人への効果（ミュージアムセラピー的側面）も期待できる。医学ジャーナルにも、ミュージアムに行くことによる認知症の発症率の低下について掲載されている例もある。各種事例からも、特に歴史系の内容は相性がよいようである。
- ・ 原爆関係と城関係を除いた領域で、重要な資料を統合・活用し、学びや多様な人が関われる場とするのは、現実的な路線であり理解を得やすい。ある程度、方向性を定めた上で多様な人へのヒアリングやサンプリングを行い、微調整していく進め方が望ましい。

(松田座長)

- ・ 項目1と2を中心とし、3と4は一体化して整理するという提案である。

(三宅委員)

- ・ 学校との連携と広島市のこどもたちの育成は明記すべきである。また、学芸員が多いので、専門性が高い情報発信をすれば市外からもアプローチがある。原爆後の交通政策や都市政策に関心を持つ大人は多く、その知識を得てまちを歩くといった活用も考えられる。学校教育向けの役割と専門性の高い情報発信の役割、その両方が必要だと考える。
- ・ 昭和58年の基本構想は、財政面でも新規事業を積極的に展開できた活気ある時代のもので、現時点では負担が大きい。この機会に、基本構想を見直すところまで考えて、広島市としての方向性を検討すべきではないか。

(松田座長)

- ・ 項目1が学芸員の専門性の活用、項目2が学校教育、項目3と4をまとめて、三つの柱とする提案である。
- ・ 凍結状態にある基本構想について、文言を更新する必要があるのか、やめると宣言する必要があるのかを確認したい。

(事務局)

- ・ 構想に基づいて比治山に博物館を作る計画だったが、財政上の理由と、放射線影響研究所の移転問題があって凍結しているので、どう取り扱うかの整理は必要になる。新たな構想を作るかどうかは別の話と考えている。

(松田座長)

- ・ 放射線影響研究所の今後の動向と関連する話であるが、新たな博物館を整備しない場合、比治山の場所は手放すことになるのか。

(事務局)

- ・ 放射線影響研究所は移転する。博物館基本構想は、その場所に博物館を建てるという内容になっているため、建てることを前提とした表記は修正が必要と考えている。

## ■必要な収蔵機能について

(垣内委員)

- ・ 放射線影響研究所の建物は、リノベーションをすることで、分散している資料を集約する機能を持たせられる建物か。

(事務局)

- ・ 放射線影響研究所は解体するか、残すか議論されている建物であり、それ以上のことはお答えするのが難しい。

(松田座長)

- ・ DOCOMOMO（ドコモモ）という20世紀建築遺産を評価する団体が、この建物を高く評価しており、その点からも検討が難しい状況にある。

(浜田委員)

- ・ 可部収蔵施設を見学したが状況が悪い。隙間が多いためほこりが発生し、温湿度管理ができておらず、金属製資料の錆が進行している。このまま20～30年放置すれば資料が朽ちることは明らかであり、より良い環境へ早急に移転すべきである。
- ・ 最善策ではないが、全国的にも廃校や空き教室を収蔵場所として活用する事例は多い。移転すれば、現状よりは環境が改善される。過酷な環境で学芸員が資料整理を行い、整理された資料に再びほこりが積もる現在の状況は好ましくない。
- ・ 由緒由来が不明な資料が相当数あるという説明があった。これは全国的にもよく課題になっているが、由緒由来が分からないものは研究や展示に活用できず資料とは呼べないという認識で考えてもよい。資料の廃棄には慎重さが必要だが、広島市としても、処分・除籍を最小限に抑える制度を整備すべきではないか。他の自治体で除籍規定を整備した経験があるが、捨てないことを原則とした除籍の制度づくりが必要と考えている。

(松田座長)

- ・ 廃校利用として、高陽収蔵資料室が幼稚園の建物を利用していると伺っている。そこにはまだ空きがあるという理解でよい。

(事務局)

- ・ 空きがあり、優先順位をつけながら徐々に資料を移動している段階である。

(松田座長)

- ・ 除籍というと、ネガティブなリアクションになりがちだが、むしろ本当に必要なものを守るために必要だという説明はあったほうがよい。
- ・ 除籍規定を設ける前に、ぜひ収集規定を設ける必要があると思う。

(三宅委員)

- ・ 資料によっては、オークションで買い手がつく可能性がある。活用してくれるところへ譲ることも規定の中に盛り込み、財産処分の1つの手として検討してほしい。

(松田座長)

- ・ 浜田先生は他の自治体で除籍規定の条件整備をされている。差し支えなければ簡単に説明をお願いしたい。

(浜田委員)

- ・ 私が関わったのは東京都多摩市の多摩ふるさと資料館設置時で、収蔵面積が以前より狭くなることが決まっており、ある程度の資料の整理・処分が前提となっていたため、捨てないための規定を整備する必要があった。処分条件として、①部品のみで存在する資料（ただし学術的に重要なものは除く）、②由緒由来が全く分からない資料、③破損が著しく修復不可能な資料と定めた。
- ・ 処分対象になったものも、まず市内の小中学校に教材活用の募集をかけ、次に市の広報で市民の譲渡希望を募った上で、最終的に残ったものを処分した。
- ・ 規定を設けることで、安易な廃棄を防ぐことができていると考えている。東京都多摩市や豊島区で実際に処分規定を整備したので、参考にしていただけたらと思う。

(松田座長)

- ・ 他の自治体でも、岡山県の真庭市などで除籍規定を設けているので参考にしてほしい。
- ・ 広島市でも除籍規定が必要だが、その前に収集規定が必要である。収集規定を明確に持たないまま資料を受け入れてきた点は、広島市が責任を負わなければならないことであり一定の批判は避けられない。覚悟を持って、寄贈者の思いにも配慮しつつ、現実的に対応が難しいことを伝えて、除籍規定を設けると、除籍が可能になると考えている。

(浜田委員)

- ・ 補足として、多摩市では、昭和40年代頃から多摩ニュータウン開発に伴い資料収集を行ってきた。古いものは由緒由来を確認せずに収集した資料も多かった。
- ・ 寄贈者の氏名が分かっている資料で、現在も市内に在住していて連絡可能な場合に限り、「処分してもよろしいですか」と連絡して了解を得た。手間はかかるが、こうした対応も必要と考えている。

(田中委員)

- ・ 収蔵庫を今回初めて見学し、除籍の必要性を理解した。
- ・ 収蔵庫には面白いと感じるものが多数あったので、一般の人が見る機会があるとよい。ストーリーが整理されなくても、見学したい人は多いのではないかと思う。

(松田座長)

- ・ 可部収蔵施設を収蔵庫と呼べるかどうかは別として、近年は「見せる収蔵庫」を持つ博物館が増えている。
- ・ 全体を通して他に言い残した点があればご発言いただきたいが、本日の議題はすべてカバーできたと思うので、本日の議事を終了する。